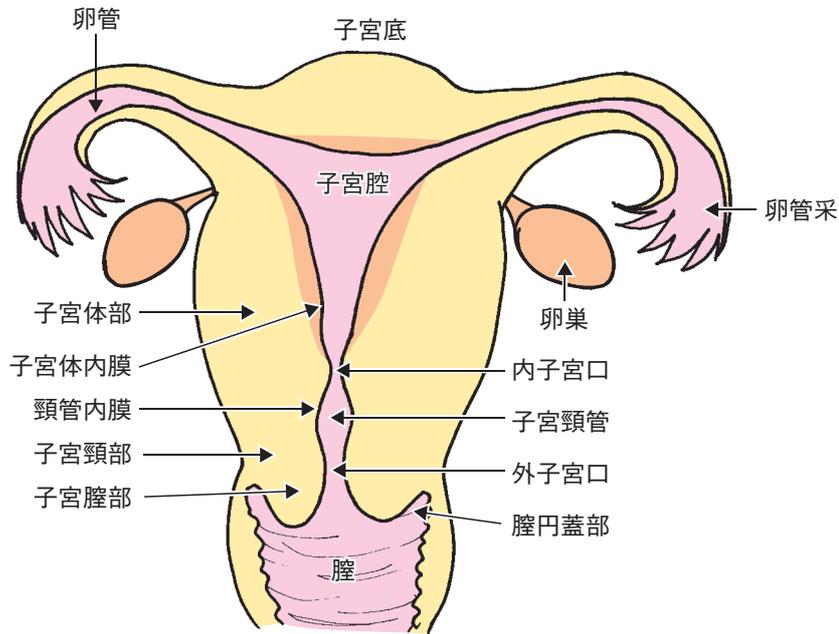


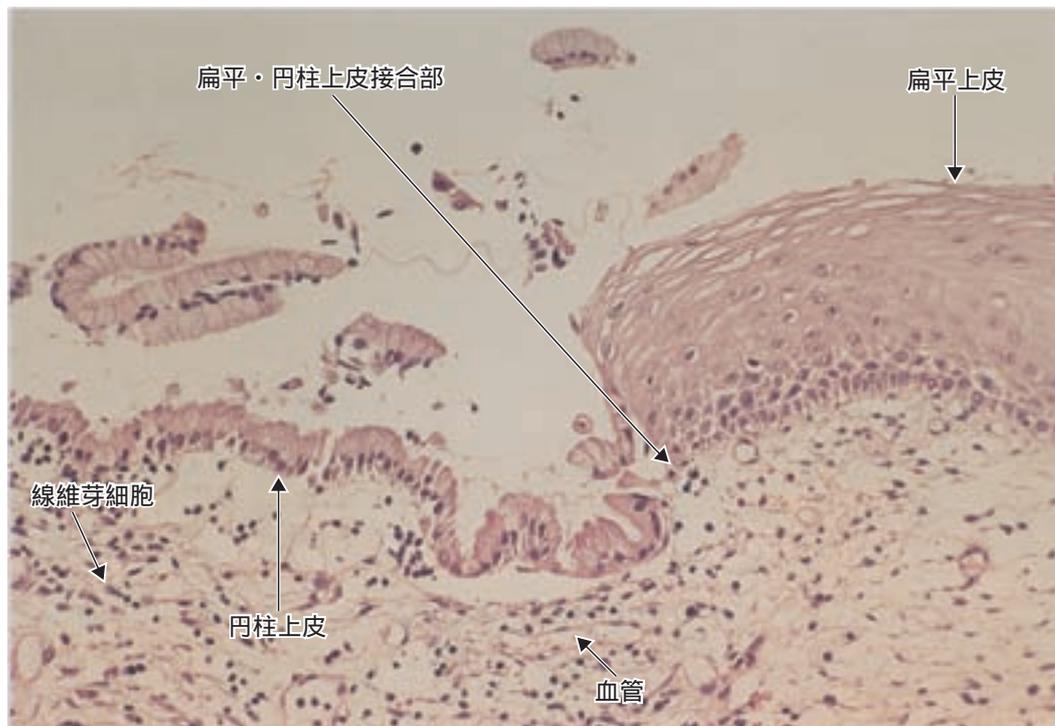
第 部 各 論

第1章 子宮頸部・体部細胞診 1. 子宮頸部細胞診での正常細胞



子宮頸部・体部領域の模式図

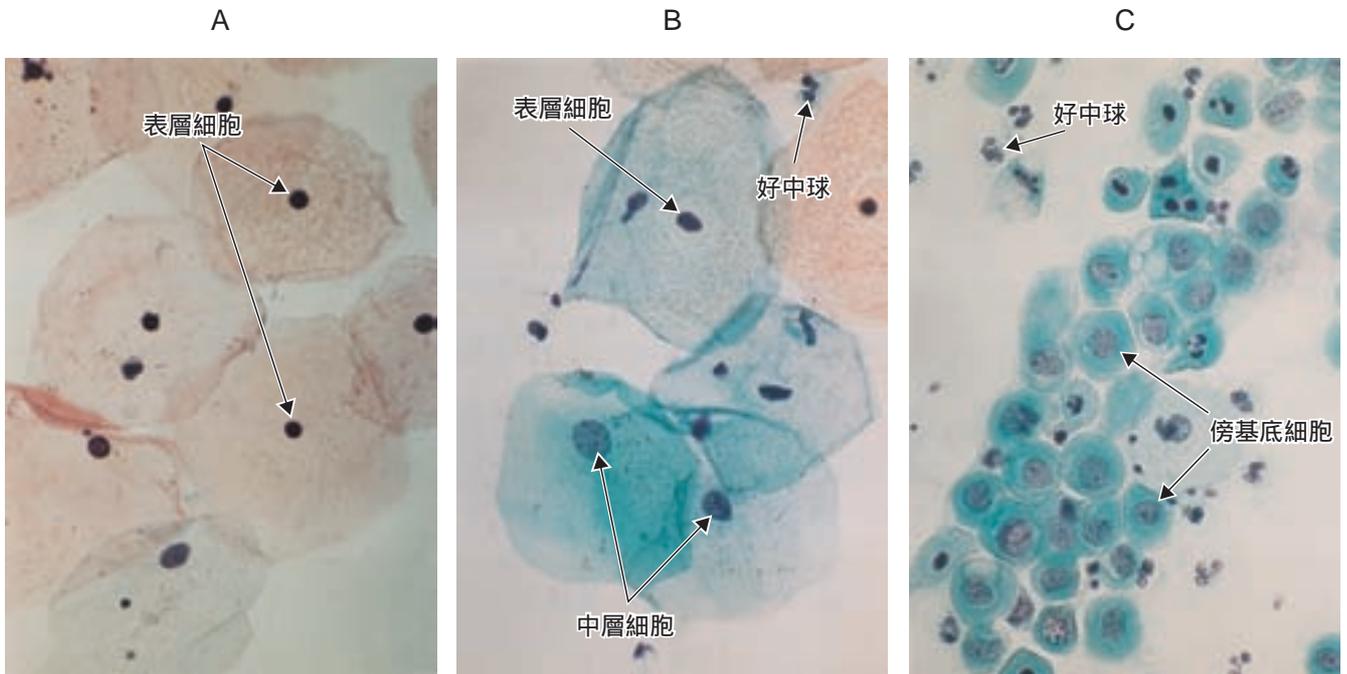
子宮頸部は子宮頸管および子宮腔部から構成されており、この箇所を綿棒、木製ヘラ、ブラシを用いて細胞を採取する。



扁平・円柱上皮接合部 (SCJ) の組織像【HE染色, ×10】

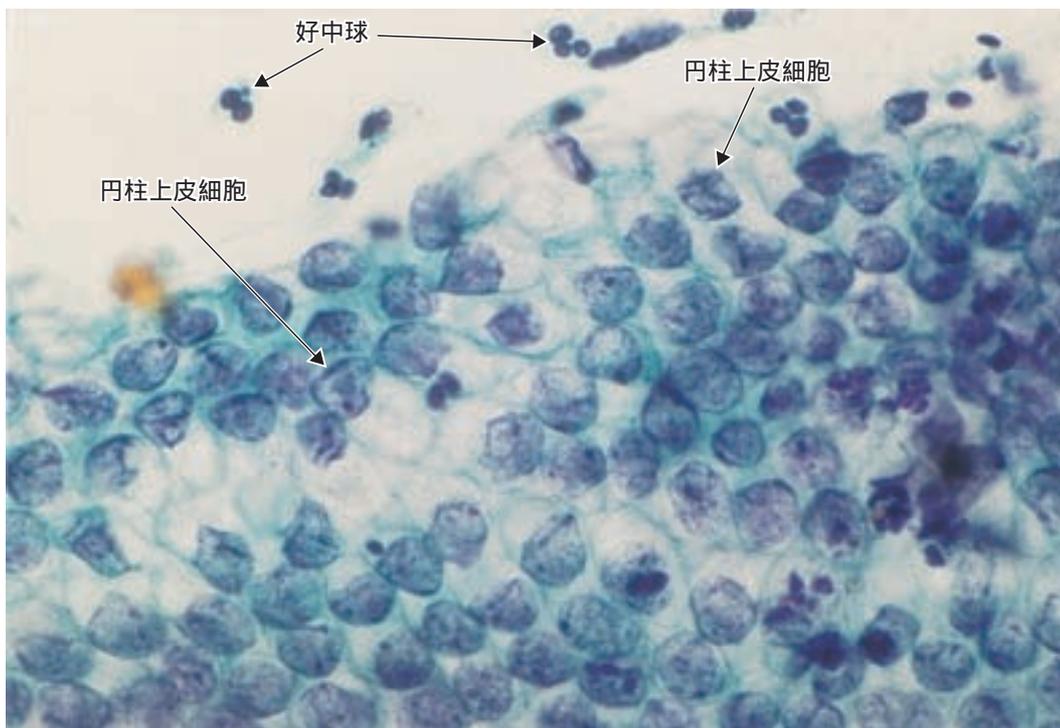
重層扁平上皮 (子宮腔部側) と円柱上皮 (子宮頸管側) の境目を扁平・円柱上皮接合部 (Squamo-Columnar Junction : SCJ) と呼ぶ。

第1章 子宮頸部・体部細胞診 1. 子宮頸部細胞診での正常細胞



表層・中層・傍基底の細胞【写真A, B, CともPap.染色, ×40】

表層・中層・傍基底の細胞は、細胞質が均質で核は中心性に位置している。各層の細胞は形や核の大き
 さで鑑別可能である。特に表層細胞の核は濃縮を示し、傍基底細胞の核は大型である。

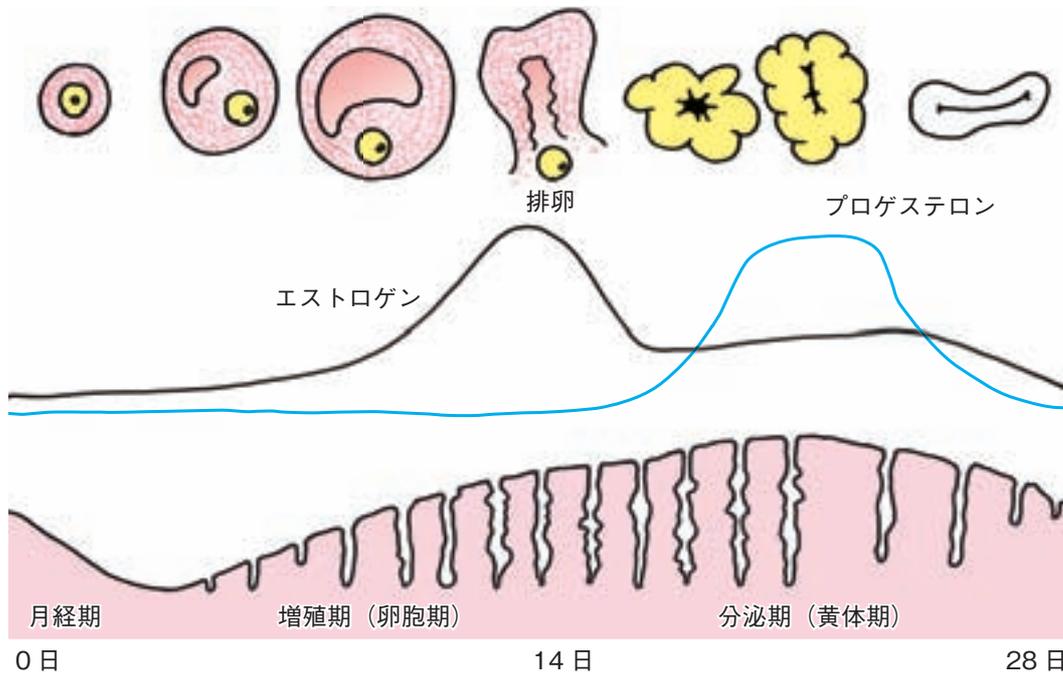


子宮頸部の円柱上皮細胞【Pap.染色, ×40】

子宮頸部の円柱上皮細胞は、平面的に出現し、蜂の巣状の構造を示している。個々の細胞は円柱状で、
 細胞質には透明、淡ピンク色または薄紫色の粘液が含まれ、核は偏在性で円形を呈している。

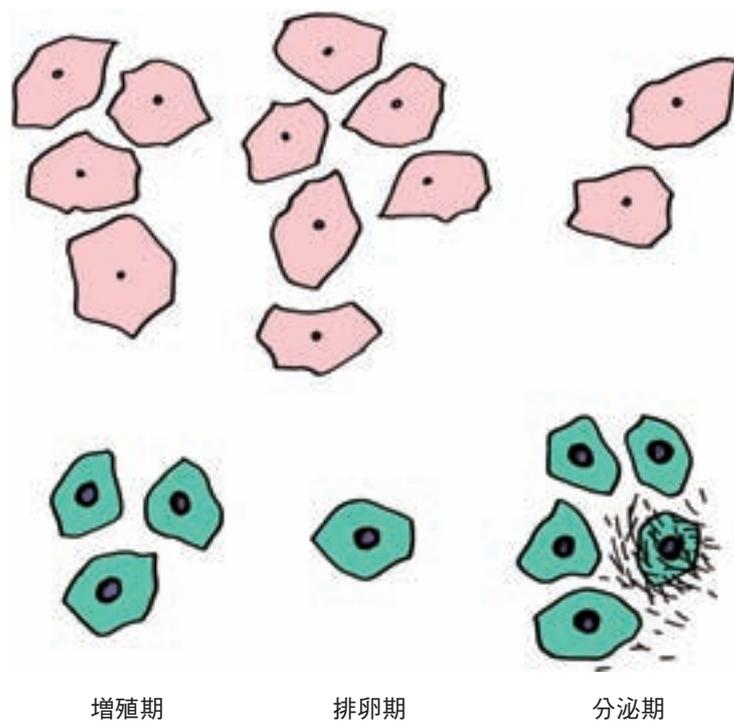
第 部 各 論

第1章 子宮頸部・体部細胞診 2. ホルモン細胞診



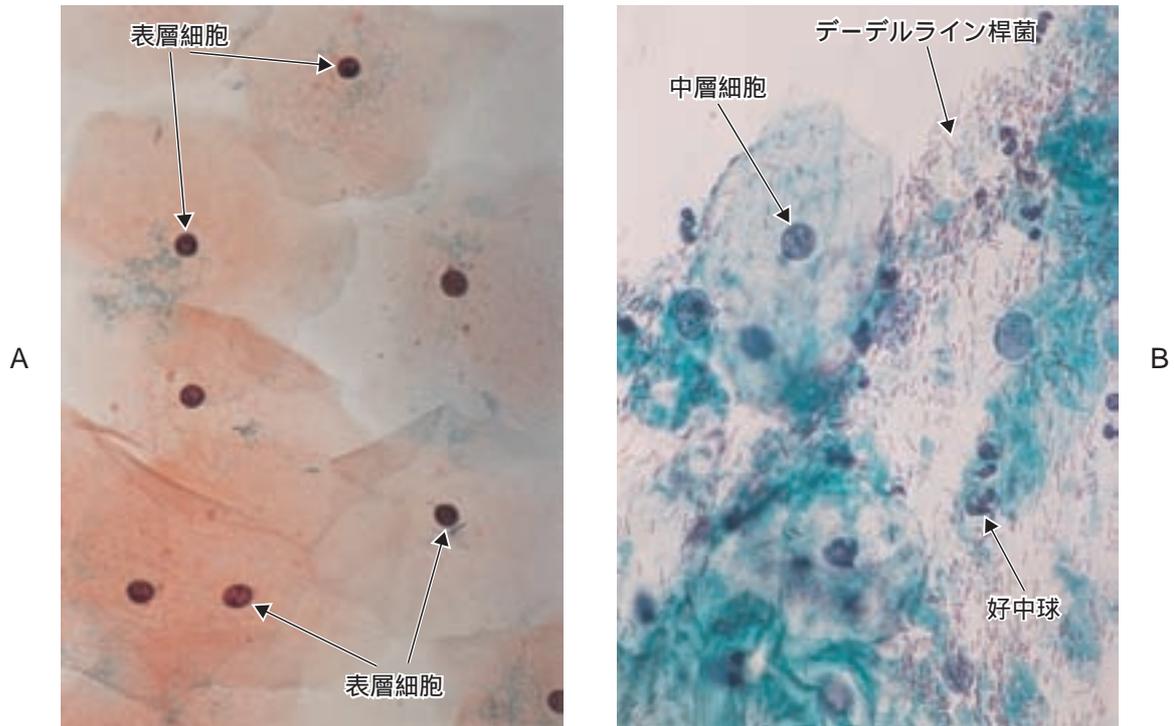
性周期における卵巣の内分泌形態

月経周期は月経期，増殖期（卵胞期），排卵期，分泌期（黄体期）を繰り返し，増殖期ではエストロゲン，分泌期ではプロゲステロンをそれぞれ分泌する。



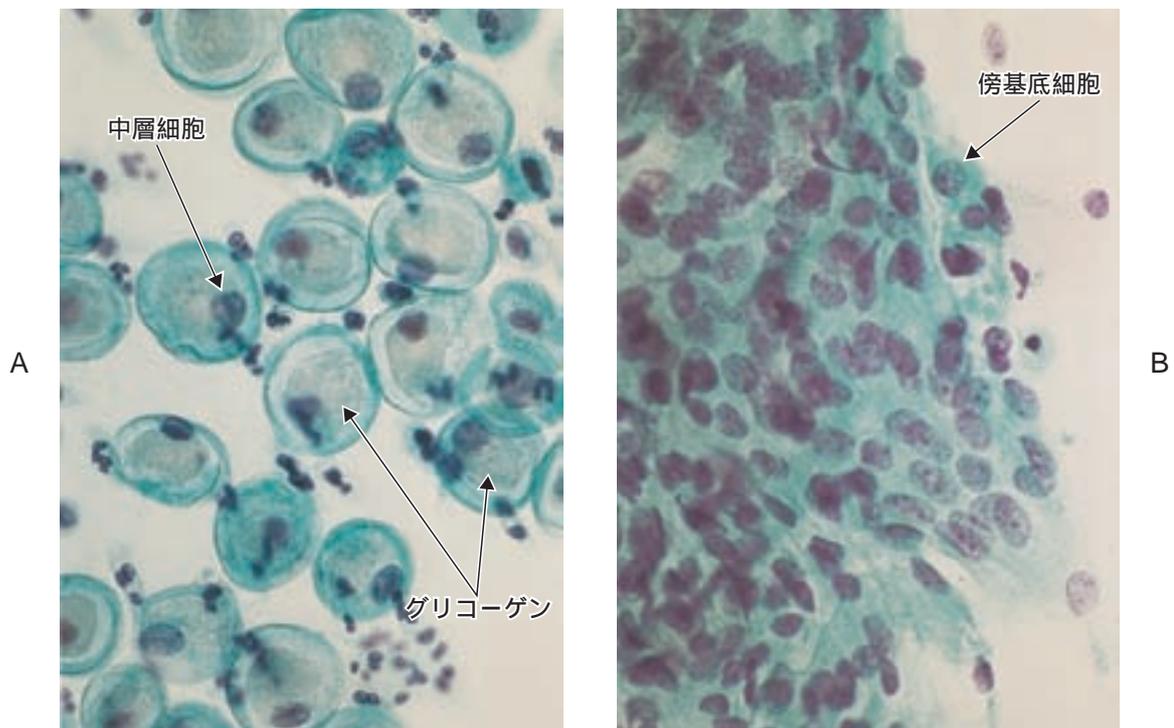
月経周期における細胞所見

増殖期では表層細胞，中層細胞が出現し，排卵期ではエオジン好性の表層細胞が優位となる。分泌期では中層細胞が優位となる。



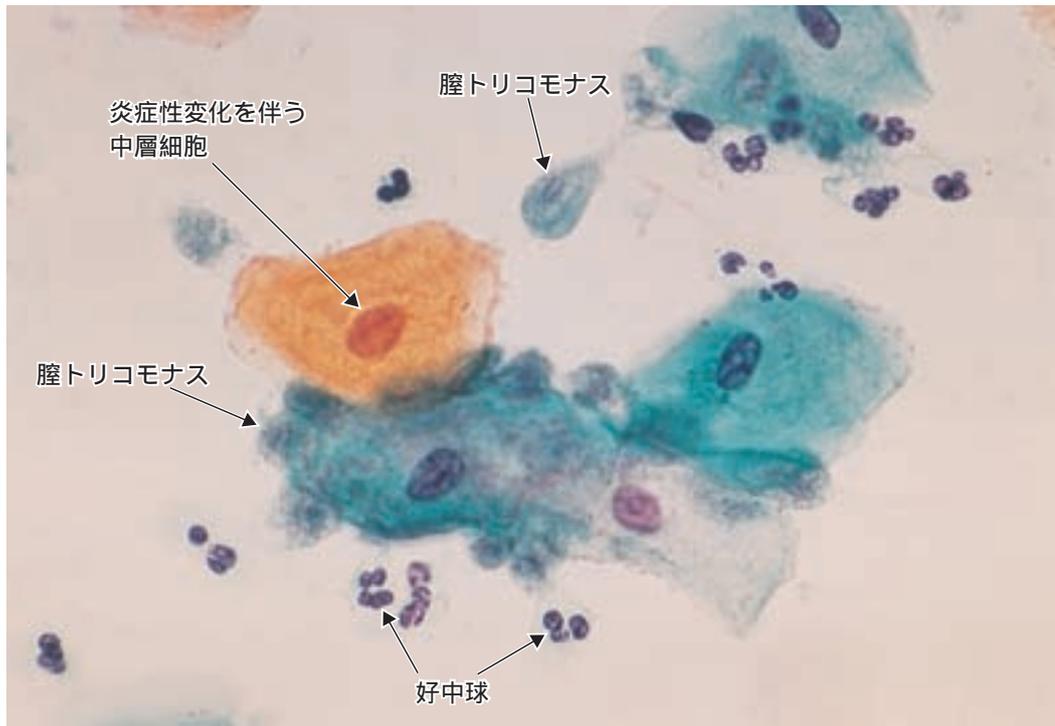
増殖期 (写真A) と分泌期 (写真B) の細胞像【写真A, BともPap染色, ×40】

増殖期および排卵期は表層細胞が主体で、特に排卵期では表層細胞のみの出現である (写真A)。分泌期は中層細胞が主体で、分泌後期になるとデーデルライン桿菌が増加してくる (写真B)。



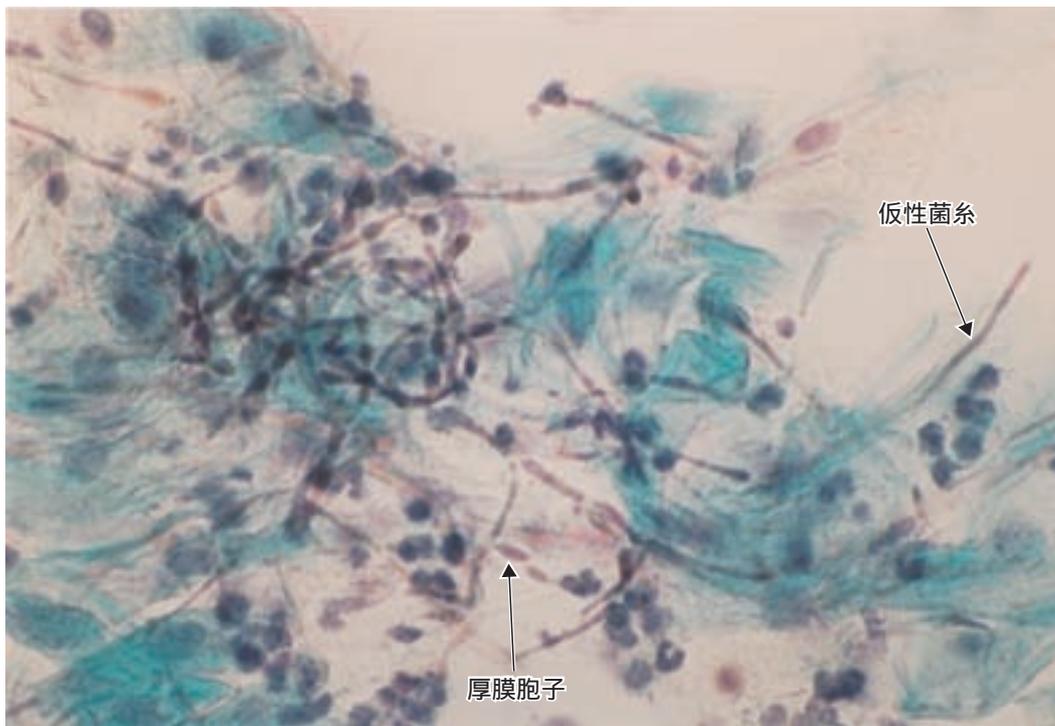
妊娠期 (写真A) と閉経期 (写真B) の細胞像【写真A, BともPap染色, ×40】

妊娠期では、中層細胞の細胞質は豊富なグリコーゲンを含む。細胞質の縁は折れ曲がる所見を認める (写真A)。閉経期では、多角形の傍基底細胞が集塊状に出現している (写真B)。



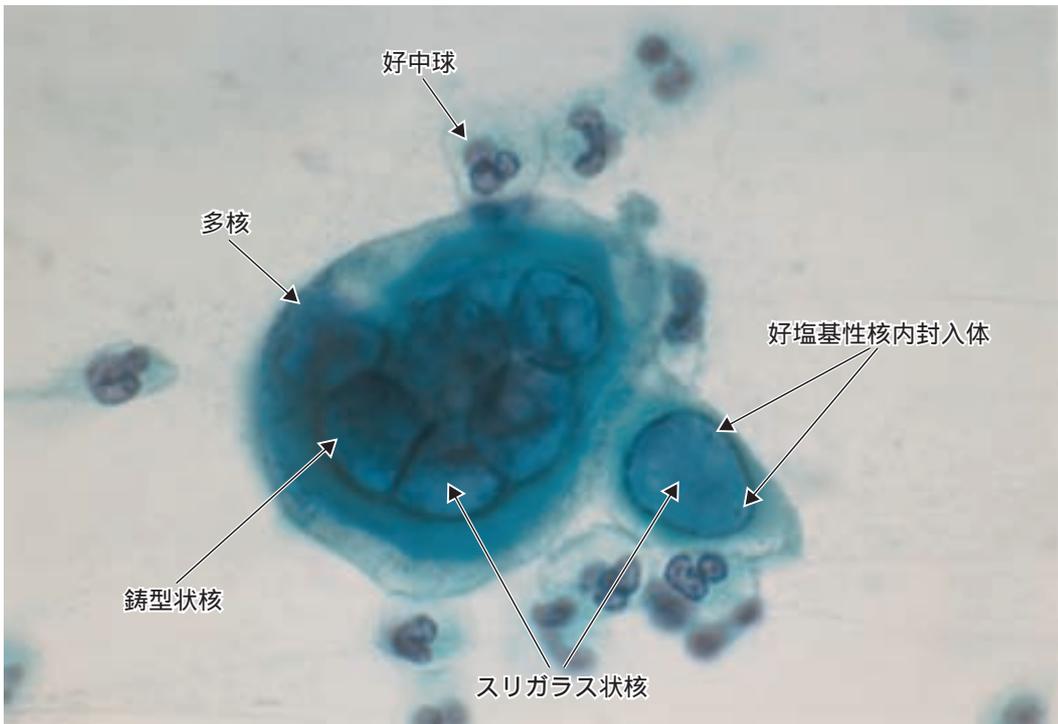
膾トリコモナス【Pap.染色，×40】

膾トリコモナスはライト緑好性の楕円形物質として認められ，核は不明瞭で小型紡錘形をしている。表層細胞や中層細胞には軽度核肥大などの炎症性所見を認める。



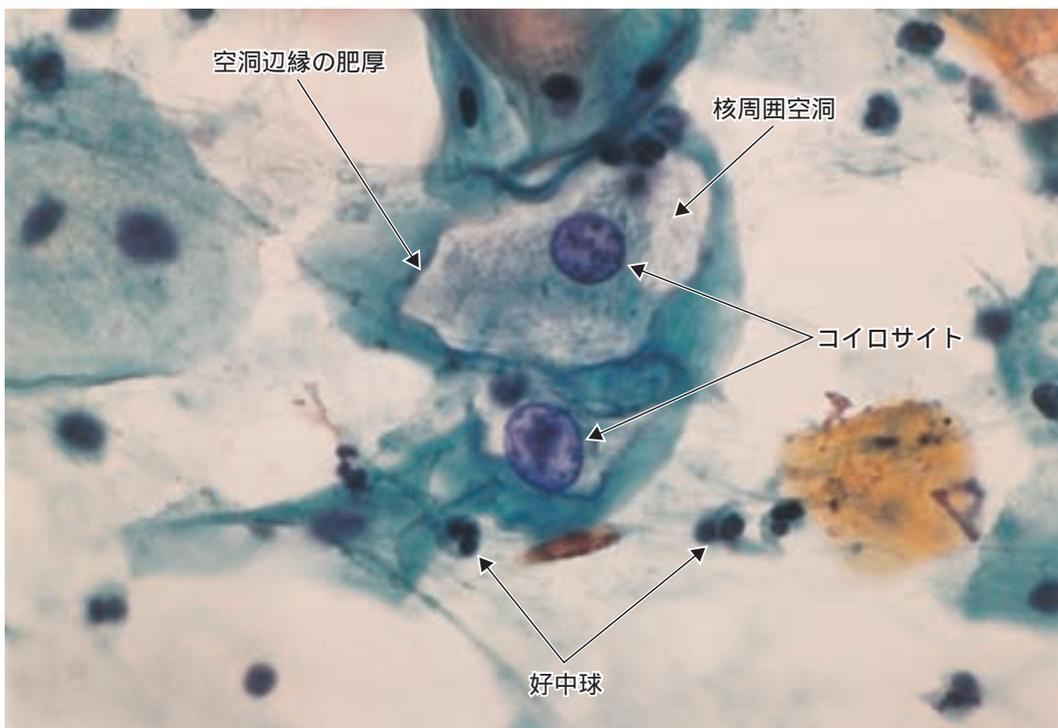
カンジダ・アルビカンス【Pap.染色，×40】

炎症性背景の中にカンジダ・アルビカンスを認める。カンジダ・アルビカンスは木の枝のような仮性菌糸と小型楕円形の厚膜胞子からなり，ピスマルクブラウン好性である。



単純ヘルペスウイルス感染細胞【Pap.染色，×40】

ヘルペス感染細胞の特徴は多核，鑄型状核，核縁肥厚およびスリガラス状核である。また，大型好酸性核内封入体や小型好塩基性核内封入体も見られる。



ヒト乳頭腫ウイルス感染細胞【Pap.染色，×40】

ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）感染症の細胞所見として，最も特徴的なのはコイロサイトである。コイロサイトは核周囲に広い空洞を認め，空洞の輪郭は不整形で，厚みを示す。